第２の人生を快適にすごす終の棲家

06.

Gunma Housing Award

特別賞 住宅金融支援機構北関東支店長賞

稲荷台の家

設計者／プラスデザイン一級建築士事務所
施工者／株式会社 関工務所

1F平面図

Concept 設計趣旨

この建物は、建て主の第２の人生を快適にすごす終の棲家としての計画です。定年退職を迎えると大きな生活サイクルの変化が訪れます。これまでより家の中で過ごす時間が増えるので、木のぬくもりがあり、明るく伸びやかな空間でゆったりとすごして頂きたいと考えました。建物は足腰の弱る将来の事も考え平屋建てとし、「火」を使う危険性を考えオール電化住宅としています。

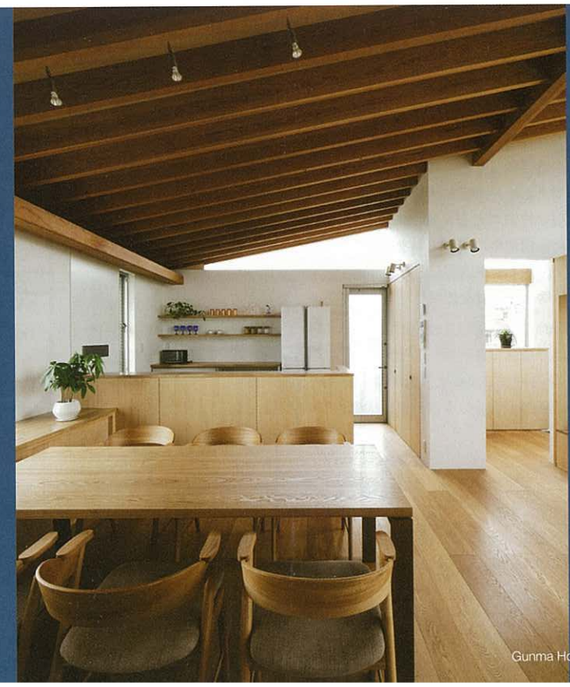
室内は天井を垂木表し仕上げとして、木のぬくもりと、木造の繊細な美しさがよく現れました。連続する天井が空間に広がりを与えています。床は浮造仕上のオーク材で木の素材感を足の裏でも感じることができます。仕上材に木材を多く使用し、表面に塗膜をつくらない自然塗料を採用しているので室内の調湿効果が期待できます。また、空気循環システムを採用し、夏場の暖められた空気は天井付近から外部に排気し、冬場天井付近にたまってしまう暖かい空気を、ゆるやかに循環させ居住性能を高めています。

建物は南側が高く、ハイサイドライトからふんだんに光を採り入れた明るい空間が生まれました。北側は低くなっているので、群馬県特有の強い北風の影響を極力抑えることが出来たと考えています。

建物の配置を敷地の北側によせることで、南側にまとまった庭を確保することが出来ました。明るい南側の庭に対して大きく開くことで自然が身近に感じられ、室内にいながら四季の移ろいを楽しむ事ができます。高窓は空を美しく切り取り、時間の変化によって表情の変わる雲や星空を生活の身近な物にしてくれています。

Review 講評

関越自動車道の前橋インターから近いが静かな住宅地です。敷地南から玄関へのアプローチは、木製のすのこ状の塀が適度なプライバシーを確保しながら程よく開かれて設置され、簡素な素材で品のある外部空間を形成しています。

建物は、シンプルな長方形の平屋の平面に大らかな垂木天井現しの片流れ屋根が、内部空間を優しく包み込んでいます。

玄関からリビング・ダイニング・キッチンとワンルーム空間に大きな障子に仕切られた和室へと連続しています。南側の広い開口からの自然光に満たされた明るい室内は、南北に風が通り抜け、寒い冬は部屋の奥まで太陽が室内を暖め、夏は深い庇と庭に植えられた落葉樹が直射日光を遮る計画のようです。オープンな中に段差をなくし将来の介護スペースや手摺りの設置も確保できるように考えてあり、高齢化社会へ向かっての理想的な終の棲家が完成されています。